

(計画案)

優しく、賢く、たくましい大野人
いきいきわくわく学ぶ 結の故郷^{くに}

～大野市生涯学習推進計画～



令和 年 月

大野市教育委員会





はじめに

わたしたちはこれまで、優しく、賢く、たくましい^{おおのびと}大野人になるために学び続けてきました。

これからもその姿勢は変わりませんし、世の中が大きく変化する現状からは、「大野人としての優しさ、賢さ、たくましさ」がより必要とされています。

また、将来が不透明な時代において、わたしたちは先人たちの育んできた結の故郷を舞台に「自発的・積極的＝いきいきわくわく」学ぶことで、さまざまな難局を乗り越えられるものと考えます。

そこで、このほど大野市教育委員会では、全ての大野人がいきいきわくわく生涯学習に取り組めるように、「大野市生涯学習推進計画」を策定いたしました。

本計画は一つの方向性を示したものであり、実際に学習を具体化していただくのはみなさま方です。

～まずは、これから5年間、この計画をみなさまと共有することを目指します～

目次

第1章 計画の策定に当たって

1	生涯学習とは	1
2	生涯学習に関する市や国、県の動向	2
3	計画の目的	8
4	計画の位置付け	9
5	計画の期間	10
6	計画の進行管理	10

第2章 大野市の生涯学習の現状と課題

1	人口と生涯学習施設の利用状況	11
2	生涯学習の取り組み状況	12
3	生涯学習の現状と課題	18

第3章 計画の基本的な考え方

1	基本目標	20
2	施策体系	23

第4章 計画実現に向けての取り組み

1	ひとづくり	26
2	つながりづくり	31
3	学ぶ場づくり	35

～わたしたちができること、みんなのできること～ 37

資料	1	大野市生涯学習推進計画の策定経過	39
	2	生涯学習に関する世論調査抜粋	40
	3	委員名簿	49

第1章 計画の策定に当たって

1 生涯学習とは

生涯学習とは、人々が生涯にわたって行うあらゆる種類の学習のことです。学校教育や家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、ボランティア活動、企業における社員教育、職業能力の開発・向上にかかる学習、趣味などさまざまな場や機会において行う学習を意味します。

また、乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の人たちが、家族との触れ合いや授業中、放課後、工作中、仕事が終わってからなどのタイミングで、幅広い分野の内容について学ぶことを意味します。

人々が生涯学習に取り組む理由には、希望する学校で学ぶため、やりたい仕事に就くため、趣味や特技を身に付けるため、子育てや介護などに役立てるため、住んでいる地域をさらに良くするため、生きがいを見つけるためなどがあります。

生涯学習に取り組むことは、自分が学習して「分かった」知識や技術を、地域社会で「活かす」ことができることであり、自ら学ぶことで人生がより豊かになり、さらには社会の豊かさにもつながります。



【うぐピー】

大野市のマスコットキャラクター

学ぶことで、
自分も社会も豊かになるのか。

2 生涯学習に関する市や国、県の動向

市の動向

(1) 第六次大野市総合計画

令和3年(2021年)2月、まちづくりの目標と方向を示した大野市の最上位計画である「第六次大野市総合計画」を策定しました。この計画は、市民や各種団体などが主体的にまちづくりに取り組むうえでの指針であるとともに、国や県などとの連携を図るための指針でもあります。

この計画では「SDGsの推進(持続可能な開発目標)※1」、「ニューノーマル※2への適応とデジタル化の推進」、「分野を越えた連携」の三つの視点を重視した施策の展開を示し、地域づくり分野においては、「市民が、生涯にわたって主体的に学び地域づくりに積極的に取り組むまち」を目指す姿に掲げた生涯学習の施策を定めています。

(2) 教育に関する大綱

令和3年(2021年)2月、大野市の目指す基本的な教育、学術及び文化の振興に関する総合的な推進を図ることを目的に「教育に関する大綱」を策定しました。

この大綱では、大野市の人口規模や立地条件及び大野市のもつ人情の厚さ、自然の豊かさ、歴史の深さなど、その長所を十分に生かすとともに、国際化社会や高度情報化社会の進展など、変化の大きい社会に対応することができる人材を育てる教育の推進に必要な事項を定めています。

※1 SDGsの推進(持続可能な開発目標): 6ページ(2)参照

※2 ニューノーマル: 新たな常態・常識、という意味。元々はリーマンショックの際に提唱された考え方ですが、新型コロナウイルスの感染拡大によって、社会全体の構造に変化が起き、元の社会へは戻れないという考えから、新たな常態であるニューノーマルを構築することが求められています。

(3) 大野市水循環基本計画

令和3年(2021年)2月、国の水循環基本法や水循環基本計画の趣旨を踏まえ、大野の恵まれた水循環を守り、未来に引き継いでいくため、大野市のさらなる水循環の健全化に向けた総合的な計画として策定しました。

この計画は「『健全な水循環による、住み続けたい結のまちの実現』-九頭竜川源流域の豊かな水環境を次世代へ-」を基本理念としています。

(4) 第三期大野市環境基本計画

令和3年(2021年)3月、大野市の豊かな自然環境を将来の世代に引き継ぐための施策の推進を図ることを目的に、「第三期大野市環境基本計画」を策定しました。

総合的な環境対策として、自然や生き物とふれあう機会の提供、自然とのふれあい活動を行う人材育成や環境教育の推進、環境学習の機会の充実など、持続可能な社会の担い手を育む教育の推進を定めています。

また、この計画の策定と併せ、大野市は、令和32年(2050年)までに市内の二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現に挑戦することを宣言しています。



御清水

(5) 大野市文化財保存活用地域計画

令和4年(2022年)〇月、大野市の文化財の保存・活用施策の展開に向けた基本的な考え方を示すための計画として「大野市文化財保存活用地域計画」を策定しました。

この計画では、大野市において文化財の保存・活用の取り組みが進められるよう、大野市の関連計画や関係施策との連携・整合性を図るとともに、文化財の現状と課題を踏まえた文化財の保存・活用に関する方針や措置を定めています。

大野市にはいろんな計画があって
みんな関係しているんだね。



【うめピー】

大野市のマスコットキャラクター

国の動向

(1) 第3期教育振興基本計画

平成18年(2006年)に教育基本法が改正されました。「家庭教育」「幼児期の教育」「社会教育」の振興に加え、「生涯学習」の理念として、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」と規定されました。

平成30年(2018年)には、「第3期教育振興基本計画」が策定され、以下の5項目が今後の教育政策に関する基本的な方針として示されました。

- 1 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する
- 2 社会の持続的な発展を^{けんいん}牽引するための多様な力を育成する
- 3 生涯学び、活躍できる環境を整える
- 4 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する
- 5 教育政策推進のための基盤を整備する

特に、生涯にわたる学びについては、次の4項目について重要性が説かれています。

- 1 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進
- 2 人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進
- 3 職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に着けるための社会人の学び直しの推進
- 4 障がい者の生涯学習の推進

(2) SDGs (持続可能な開発目標)

平成27年(2015年)9月の国連サミットで、誰一人取り残さない社会の実現を目指した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、SDGsが示されました。

令和12年(2030年)までの15年間で達成することを目指し、「質の高い教育の提供」、「ジェンダー平等」などの17の目標と169のターゲットを設定しています。

これにより、我が国においてもSDGs実施指針を策定し、全ての人への包摂的かつ公正な質の高い教育の確保や生涯学習の機会促進、子どもの貧困対策や循環型社会の構築など具体的な施策が示されました。



(3) 第6期科学技術・イノベーション基本計画

令和3年(2021年)3月に我が国が目指すべき社会(Society5.0※)の実現のため、持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人一人が多様な幸せを実現できる社会を目指した「第6期科学技術・イノベーション基本計画」が策定されました。

この計画では、社会において一つの組織を離れても自らの夢を持ち続け、生きがいを持って社会に参加し続けることができるような環境が求められており、自らの能力を向上させ、活躍可能な場を切れ目なく見つけることができる社会の構築を目指すことが示されました。

※Society5.0: 狩猟社会(Society1.0)、農耕社会(Society2.0)、工業社会(Society3.0)、情報社会(Society4.0)に続く、新たな社会を指すものです。Society5.0で実現する社会は、IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、さまざまな知識や情報が共有され、今までにない新たな価値が生み出されます。また、人工知能により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子化・高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されると言われています。

※IoT:モノのインターネット。さまざまな「モノ(物)」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組みです。

県の動向

(1) 教育に関する大綱

令和元年（2019年）10月、今後5年間における福井県の基本的な教育方針となる「教育に関する大綱」が策定され、教育の目指す姿として、「一人一人の個性が輝く、ふくい未来を担う人づくり」という基本理念が定められました。

この大綱では、目指す人間像を「自らの個性を發揮し、人生を切り拓くために挑戦し続ける人」、「多様な人々の存在を認め、協働して新たな価値を生み出す人」、「ふるさとや自然を愛し、いづどこにいても社会や地域に貢献する人」と示し、教育、学術及び文化の振興に関する施策の基本的な方針を定めています。

(2) 福井県教育振興基本計画（第3期）

令和2年（2020年）3月、教育に関する大綱の基本理念と目指す人間像の実現に向け、「福井県教育振興基本計画（第3期）」が策定されました。

学校教育をはじめ、家庭や地域の教育、生涯学習、文化芸術・スポーツの各分野において以下の8項目の方針を定め、教育も具体的な施策に取り組むとしています。

- 1 学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成
- 2 適性や興味関心に応じた文化芸術、スポーツ活動の促進
- 3 豊かな心、健やかな体の育成
- 4 国際的な視野に立ち、自ら考えを発信する力の育成
- 5 特性や心情に配慮し、誰もが安心して学べる教育環境の整備
- 6 ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成
- 7 生涯にわたる学びの支援
- 8 新たな時代を見据えた教育環境の整備

3 計画の目的

「人生100年時代」と言われる中、全ての人に活躍の機会があり、元気に活躍し続けられる社会をつくる必要があることから、生涯にわたり必要な知識や技能、技術を学び、人生を豊かに生きることができる生涯学習社会の実現が求められています。

このような状況の中、大野市では、平成28年（2016年）に乳幼児から高校生までを対象に、家庭の教育力や地域の教育力の向上を目的とした「大野市結の故郷ふるさと教育推進計画」を策定し、家庭教育や地域教育の推進に取り組んできました。

この計画では子どもの教育に重点を置いていましたが、これからは人生100年時代に対応できる生涯学習社会の実現に向け、新たに全ての市民を対象として、生涯を通じて学び合い、協力し合い、次代の地域社会を支える人づくりを目指した生涯学習を推進するため、「大野市生涯学習推進計画」を策定します。

人生100年時代、
みんなで学び合うことが大切だね。



【ゆいピー】

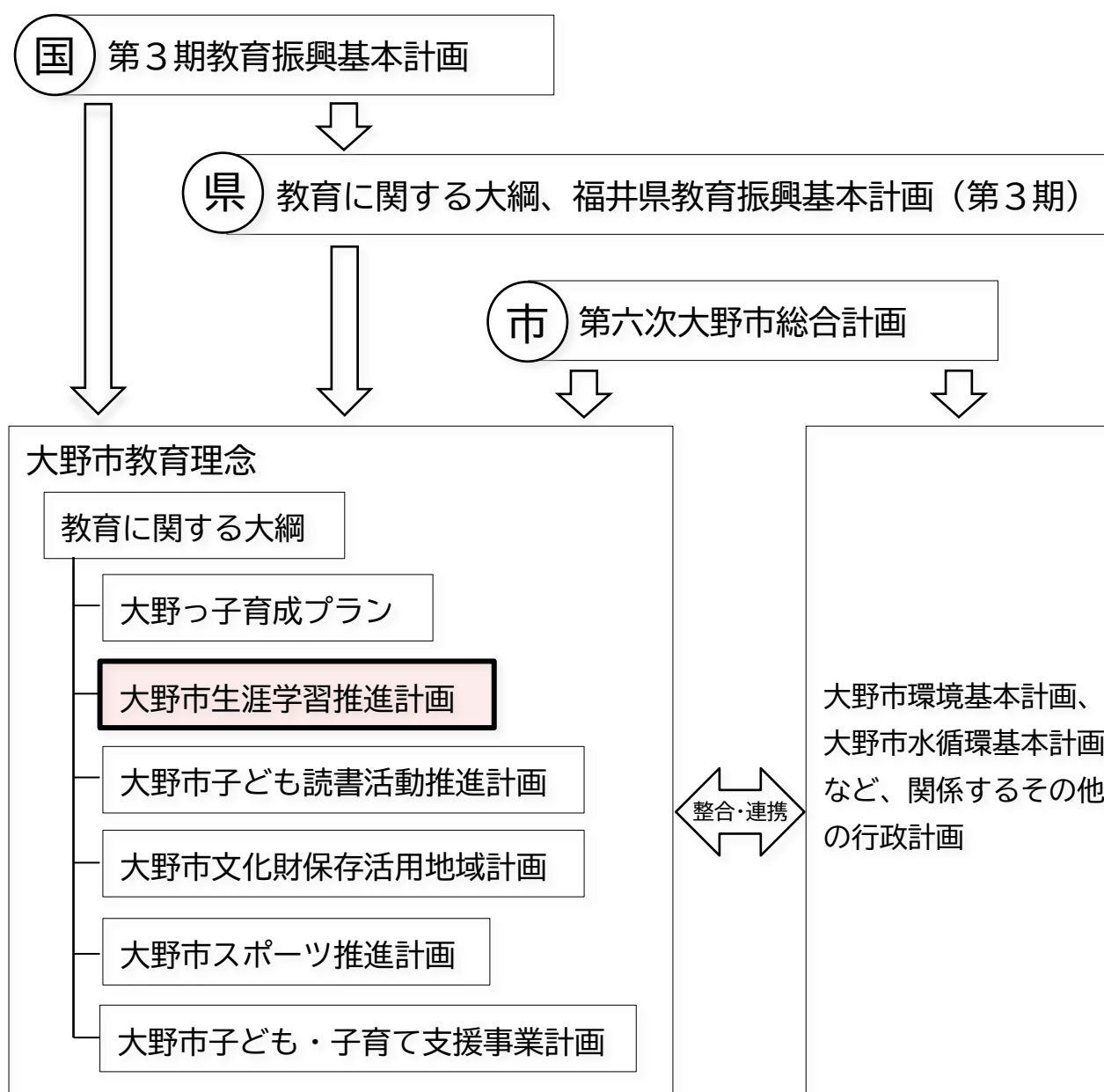
大野市のマスコットキャラクター
（うぐピーとうめピーの長男）

4 計画の位置付け

本計画は、「第六次大野市総合計画」、大野市の「教育に関する大綱」を上位計画として、大野市の生涯学習を具体的に推進するための計画です。

生涯学習は、学校教育や家庭教育、社会教育をはじめ、文化・スポーツ活動、子ども・子育てなど多岐にわたります。

そこで、分野ごとに各計画との整合を図り、関係機関と連携しつつ、生涯学習の推進を通して「第六次大野市総合計画」、「教育に関する大綱」に掲げている目標の達成に向けて取り組みます。



※スポーツの分野については、本計画の中で定めず、令和4年〇月策定の大野市スポーツ推進計画において定めています。

5 計画の期間

本計画は、令和4年度（2022年）から令和8年度（2026年）までの5年間の計画期間とします。

5年間でどれだけ学べるかな。



【おとしちゃん】

大野市図書館のマスコットキャラクター

6 計画の進行管理

- (1) 社会教育委員の意見や講座、講演会参加者へのアンケートなどを踏まえ、市民の生涯学習に対する意向を把握します。
- (2) 事業実施後は、それぞれの実施状況や参加者の傾向を把握するとともに、内容の改善や新たな施策の立案を行い、施策の効率的な推進に努めます。



【かめじろう】

大野市のマスコットキャラクター（うぐピー家族のペット）

みんなの意見をききながら、改善していくんだね。

《参考成果指標》

第六次総合計画指標	内容	令和元年度 現状	令和7年度 目標
子どもの生涯学習事業参加回数	18歳以下の子ども1人当たりの年間生涯学習事業参加回数（生涯学習センター、公民館、図書館主催）	1.41回	1.45回
公民館利用回数	市民1人当たりの年間公民館利用回数（他所で行った公民館事業参加者数を含む）	3.61回	3.66回
図書館利用回数	市民1人当たりの年間図書館利用回数	2.98回	3.20回

第2章 大野市の生涯学習の現状と課題

1 人口と生涯学習施設の利用状況

(1) 人口の状況

大野市の人口は、平成7年（1995年）の国勢調査では40,245人でしたが、25年後の令和2年（2020年）の国勢調査では31,286人にまで減少しています。65歳以上の高齢者人口は増加していますが、15歳から64歳までの生産年齢人口、14歳以下の年少人口はともに減少しています。

平成30年（2018年）の国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計によると、大野市の人口は、令和17年（2035年）には2万5千人を下回り、令和27年（2045年）には2万人を下回ると予測されています。

(2) 主な生涯学習施設の利用状況

主な生涯学習施設の市民の利用状況は次のとおりです。どの施設も令和元年度（2019年度）までの数年は、利用者数が微減で推移してきました。

施設名	平成30年度 までの推移	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)
生涯学習センター	5~6万人	48,128人	27,507人
市内9公民館	8~9万人	83,876人	71,745人
図書館	10万人程度	97,555人	73,835人
歴史博物館	4~5千人	4,130人	3,102人
民俗資料館	4~5千人	4,323人	2,486人
本願清水イトヨの里	9千~1万2千人	9,688人	5,816人

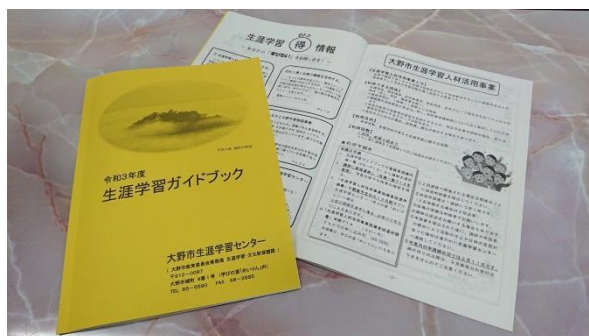
令和2年度（2020年度）においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、全ての施設が利用を制限しました。

2 生涯学習の取り組み状況

大野市の主な取り組み状況は次のとおりです。

主な取り組み① 「事業紹介」

生涯学習の推進のため、各事業や講師を紹介する「生涯学習ガイドブック」を作成して、市民の自主的な活動に役立てています。



生涯学習ガイドブック

主な取り組み② 「保護者や乳幼児向けの事業」

保護者や乳幼児に向けては、育児支援や交流の場づくりを推進しています。子育てに悩む保護者を支え、子どもの健やかな成長を支援するため、「地域子育て支援センター」や「子育て交流広場ちつく・たつく」により情報提供や講座の開催などを進めています。



家庭教育講座



なるほど、親子で学べる講座もあるんだね。

主な取り組み③ 「青少年向けの事業」

青少年に対しては、地域全体で健やかな成長を育むことができるよう、親子教室などのふれあい交流を図っています。

また、小学生を対象に放課後子ども教室や子ども会育成会での体験学習・交流活動を実施しており、中学生と高校生を対象に次代の地域を担うジュニアリーダーの育成に努めています。



放課後子ども教室・放課後児童クラブ連携事業



ジュニアリーダーDAYキャンプ

ジュニアリーダー参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
登録者	56人	35人	41人	9人
事業開催数	3回	3回	3回	2回
参加人数	79人	46人	34人	12人

※近年のジュニアリーダーの登録者は、女子が80%以上を占めています。

主な取り組み④ 「成人向けの事業」

成人に対しては、公民館活動においてニーズに応じた講座を開設しているほか、生涯学習人材活用事業において仕事や趣味で知識や技術を身に付けた人を指導者として登録し、市民の学習の場に派遣しています。

また、高齢者の生きがいづくりにつながる「わく湧くお届け講座」や各公民館での人づくり事業を実施しています。



生涯学習人材活用事業

生涯学習人材活用事業参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
指導者登録者数	64人	65人	65人	63人
派遣回数	222回	224回	227回	117回
参加人数	5,582人	5,120人	4,500人	1,497人

※令和元年度の参加人数のうち、60代以上が約70%を占めています。また、女性の参加人数が70%以上となっています。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により派遣回数が減少しました。



わく湧くお届け講座

わく湧くお届け講座参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講座登録メニュー数	84講座	85講座	80講座	79講座
派遣回数	110回	125回	98回	64回
参加人数	2,467人	2,441人	2,159人	1,151人

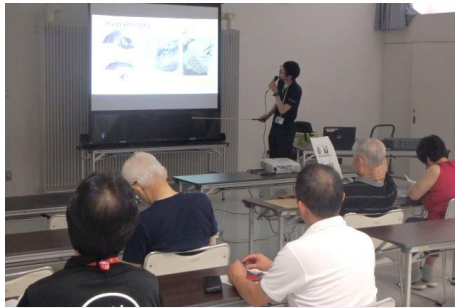
※わく湧くお届け講座は、行政が取り組んでいる事業について説明を行うもので、市民の学習の場に職員を派遣する事業です。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により派遣回数が減少しました。

主な取り組み⑤ 「歴史や文化、自然を学ぶ事業」

大野市には、歴史的・学術的に貴重な資料が多く残っています。

それらを大切に守り、郷土の歴史や文化、自然を学ぶ機会として、歴史や化石に関する講座や博物館での企画展を実施しています。



博物館講座

博物館講座参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講座開催数	5回	5回	4回	3回
参加人数	151人	140人	75人	81人

※博物館講座のうち、歴史に関する参加者は男性が多く、化石に関する講座は子どもを含めた家族連れの参加者が多い傾向にあります。



水の循環講座「スイスイ課外授業」

スイスイ課外授業参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講座開催数	-	-	-	6テーマ×2回
参加人数	-	-	-	111人

※中学生以上を対象として、水循環をテーマに楽しみながら学ぶ講座です。令和2年3月に開館した「越前おおの水のがっこう」で開催しています。



水の循環講座「スイスイ課外授業ジュニア」

スイスイ課外授業ジュニア参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講座開催数	-	-	-	2テーマ×2回
参加人数	-	-	-	23人

※小学生を対象として、水循環をテーマに楽しみながら学ぶ講座です。令和2年3月に開館した「越前おおの水のがっこう」で開催しています。



環境塾

環境塾参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講座開催数	4回	1回	1回	中止
参加人数	127人	22人	35人	-

※小学生が対象ですが、参加児童の年齢や事業内容によっては保護者同伴としており、子育て世代と一緒に学習しています。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。

主な取り組み⑥ 「市民学校」

健康や食事、災害対策など、専門の講師を招き、さまざまな課題についての理解を深める講座を開催しています。



市民学校

市民学校参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講座開催数	5回	6回	5回	5回
参加人数	280人	297人	394人	57人

※令和元年度の参加人数のうち、60代以上が約90%を占めています。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者が減少しました。

主な取り組み⑦ 「人権同和教育推進事業」

身近にあるさまざまな人権問題に関する学習を通して、市民一人一人が差別意識の解消を図り、人権尊重の意識を高めるために講演会や学習会を開催しています。



人権啓発講演会

人権啓発講演会参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講演会開催数	1回	1回	1回	中止
参加人数	119人	174人	111人	—

※平成29年度から令和元年度までは、福祉ふれあいまつりととの共催により実施しました。

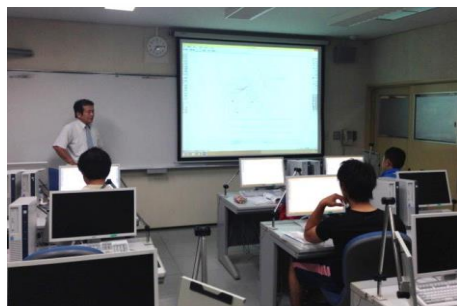
※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

人権教育学習会参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
学習会開催数	9回	9回	5回	11回
参加人数	276人	288人	144人	389人

※令和2年度は、放課後子ども教室に参加している児童を対象に人権教育を行ったことで、例年より参加者数が増加しています。

主な取り組み⑧ 「職業訓練講座」

大野市職業訓練センターでは、身近で受けられる職業訓練に関する講座を開催しています。ITスキルの習得や業務に必要な人間関係づくりなど、仕事に役立つ内容を学習する講座を開催するほか、ハローワークなどが行う講座の会場として活用しています。



職業訓練講座

主催講座参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講座開催数	31回	31回	29回	28回
参加人数	1,181人	1,669人	1,330人	1,418人

※大野市の主催講座として、エクセルやワードの活用やインターネットを利用した商品の販売方法、職場のハラスメントなどの講座を実施しています。

主な取り組み⑨ 「生涯学習フォーラム」

生涯学習の重要性を広く啓発するとともに、学習の情報並びに機会を提供し、生涯学習社会の機運を高めることを目的に、生涯学習フォーラムを開催しています。

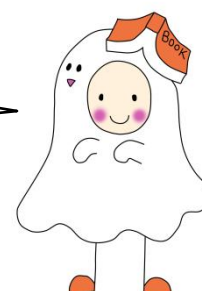


生涯学習フォーラム

生涯学習フォーラム参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
開催数	中止	1回	1回	中止
参加人数	—	164人	200人	—

※平成29年度は大雪の影響により、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。

いろんな講座が開かれているね。



3 生涯学習の現状と課題

現状と課題 1

生涯学習に求められる内容として、若い年代では「職業上必要な知識や技能」、高齢者では「趣味や健康・スポーツ」の割合が多くなっています。（内閣府が実施した生涯学習に関する世論調査※）

年代層によって生涯学習に求める目的や学習内容が異なるため、それぞれにふさわしい学習メニューを提供する必要があります。

現状と課題 2

これまでに開催した講座は、そのテーマや内容により高齢者や女性の比率が多くなるなど、参加者層に偏りがあるのが現状です。

全ての年代の市民が、年代に応じて学びたいと思える講座や教室の企画が必要です。

現状と課題 3

少子化・高齢化や人口減少が進む中で地域の絆づくりを進めるため、地域を担う人材を発掘し、育成することが課題となっています。

祭りや伝統行事、伝統芸能などを地域の宝として、守り伝えていく担い手の確保が必要になっています。

現状と課題 4

近年は、住民主体の新たな学習活動の進展が見られない状況となっています。

若い年代を中心に、市民ニーズに即した今日的な活動を住民主体で立ち上げられるよう、支援する必要があります。

※内閣府が実施した生涯学習に関する世論調査：40ページ参照

現状と課題 5

災害や事件、事故が発生した時など、地域で「協力し合う」「助け合う」という互助の大切さが改めて注目されています。

家族や地域の人が交流を深め、お互いを信頼することで、結の故郷にふさわしい関係を築く必要があります。

現状と課題 6

生涯学習の情報を各種広報などで提供していますが、認知度が低く、市民に関心を持たれていない状況です。

市民が生涯にわたって学習するため、分かりやすく情報を提供するとともに、いつでもどこでも生涯学習に触れる機会を増やし、気軽に集うことができる活動拠点の充実を図る必要があります。

これが改善ポイントだね！！



第3章 計画の基本的な考え方

1 基本目標

大野市では、市民が大野市をより豊かで住みよく生きがいのあるまちにするために、次のとおり大野市民憲章を定めています。

大野市民憲章

九頭竜川の上流にある大野は、清らかな水と空気に恵まれ、緑豊かな自然にはぐくまれてきました。純朴さの中にも幕末の大野丸に象徴される進取の気象と、雪国特有のねばり強さで、今日の繁栄を築いてきました。

私たちは、美しい自然と輝かしい伝統を受け継ぎ、住みよく生きがいのあるまちづくりを目指して、市民憲章を定めます。

- みずみずしさあふれるまちに
私たちは、美しい自然を守り、豊かな郷土をつくります。
- 小さな芽が伸びるまちに
私たちは、伝統を受け継ぎ、新しい文化を育てます。
- 大きくはばたくまちに
私たちは、働くことに喜びを持ち、郷土の発展につとめます。
- あたたかい心のかようまちに
私たちは、健康で幸せな家庭をつくり、親切の輪を広げます。
- 明るくやすらぎのあるまちに
私たちは、まちづくりに進んで参加し、住みよいまちを築きます。

昭和53年（1978年）10月告示



大野丸模型（大野市歴史博物館）

また、大野市教育委員会では、大野市の教育の方向を示す教育理念を次のとおり定めています。

大野市教育理念

～ 明倫の心を重んじ 育てよう おおのびと 大野人 ～

人としての生きる道を明らかにし、進取の気象を育てた明倫の心は、いつの時代においても変わらない大野の学びの原点です。

私たちは、この心を大切に、優しく、賢く、たくましい大野人になるため、学び、育てることに努めていきます。

平成21年（2009年）3月

第六次大野市総合計画においては、大野市民憲章と大野市教育理念を恒久的なまちづくり、人づくりの理念とし、将来像を「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」と決めました。

その実現のため、次のとおり六つの分野においてまちづくりの基本目標を定めています。

分野名	基本目標
こども	未来を拓く大野っ子が健やかに育つまち
<small>けんこうふくし</small> 健幸福祉	健幸で自分らしく暮らせるまち
地域経済	歴史・風土と新たな強みを生かした活力あるまち
くらし環境	豊かな自然の中で快適に暮らせるまち
地域づくり	みんなでつながり地域が生き生きと輝くまち
行政経営	結のまちを持続的に支える自治体経営

さらに、六つの分野のうち、生涯学習との関係が深いこども分野においては、目指す姿の一つとして「子どもたちの確かな学力や夢に挑戦する力、ふるさとを愛する心を育むまち」を掲げています。地域づくり分野においては、目指す姿の一つとして「市民が、生涯にわたって主体的に学び、地域づくりに積極的に取り組むまち」を掲げています。

大野市生涯学習推進計画では、大野市民憲章や大野市教育理念、第六次大野市総合計画を踏まえ、市民一人一人が自分にあった学びを行いながら「いきいき」「わくわく」と暮らしていくことができる生涯学習の実現を目指すため、基本目標を次のとおり定めます。

本計画の基本目標

優しく、賢く、たくましい大野人

いきいきわくわく学ぶ 結くの故郷に



2 施策体系

基本目標の実現のため、次の三つの柱を基本方針とします。

基本方針1 ひとづくり【地域を担う人づくりを推進します】

生涯学習の目的は、学習によって自分を成長させ、これからの人生を豊かにすることです。さらに学習で得た成果や能力を社会で生かすことにより、関わった人たちに学習の機会を広げることにつながります。

このため、将来の地域を担う人が育成されるよう、一人一人に応じた学習の提供や支援、ライフステージや時代の変化に応じた学習メニューの充実、差別のない社会の実現や地域の課題解決につながる取り組みを推進します。

基本方針2 つながりづくり【地域での交流を深め、支え合いを広げます】

地域に誇りと愛着を持ち、地域の仲間とともに学ぶことは、連帯感を培い、互いの理解を深めることにつながります。

また、団体・企業との連携や国際交流・国際理解教育を通じて、地域がつながり地域で支え合う仕組みが作られれば、よりよい地域社会が形成されます。

このため、地域の仲間が生涯学習を通じて交流を深め、支え合うつながりづくりを目指します。

基本方針3 学ぶ場づくり【地域住民が利用しやすい活動拠点を目指します】

広く生涯学習を推進するには、目的に応じた学習の場の提供や学習方法の工夫が必要です。

このため、生涯学習センターや公民館、図書館、博物館において多様な学習方法の提供を進めるほか、学習施設の整備や施設運営の工夫により、気軽に集うことができ、いつでもどこでも学べる環境づくりに取り組みます。

基本
目標

優しく賢く、たくましい大野人いきいきわくわく学ぶ結の故郷

基本方針
1

ひとづくり

【地域を担う人づくりを推進します】

施策

- (1) ライフステージに応じた学習メニューの充実
- (2) 時代の変化に応じた知識や技術の学習
- (3) 男女共同参画の推進や差別のない社会の実現に向けた人権教育の推進
- (4) 地域の課題解決に関する学習の推進

基本方針
2

つながりづくり

【地域での交流を深め、支え合いを広げます】

施策

- (1) 地域で支え合う仕組みづくり
- (2) 地域に誇りと愛着が持てる学習の推進
- (3) 国際交流・国際理解教育の推進
- (4) 団体・企業との連携

基本方針
3

学ぶ場づくり

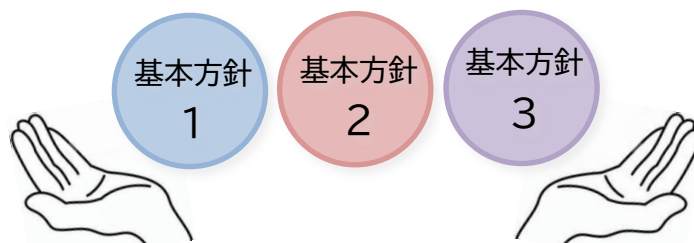
【地域住民が利用しやすい活動拠点を目指します】

施策

- (1) いつでもどこでも学べる環境づくり
- (2) 気軽に集うことができる活動拠点の充実

～三つの基本方針に取り組むに当たって～

三つの基本方針に取り組むに当たっては、情報発信の充実と学習の主体ごとの連携強化を共通の取り組みとして実施します。

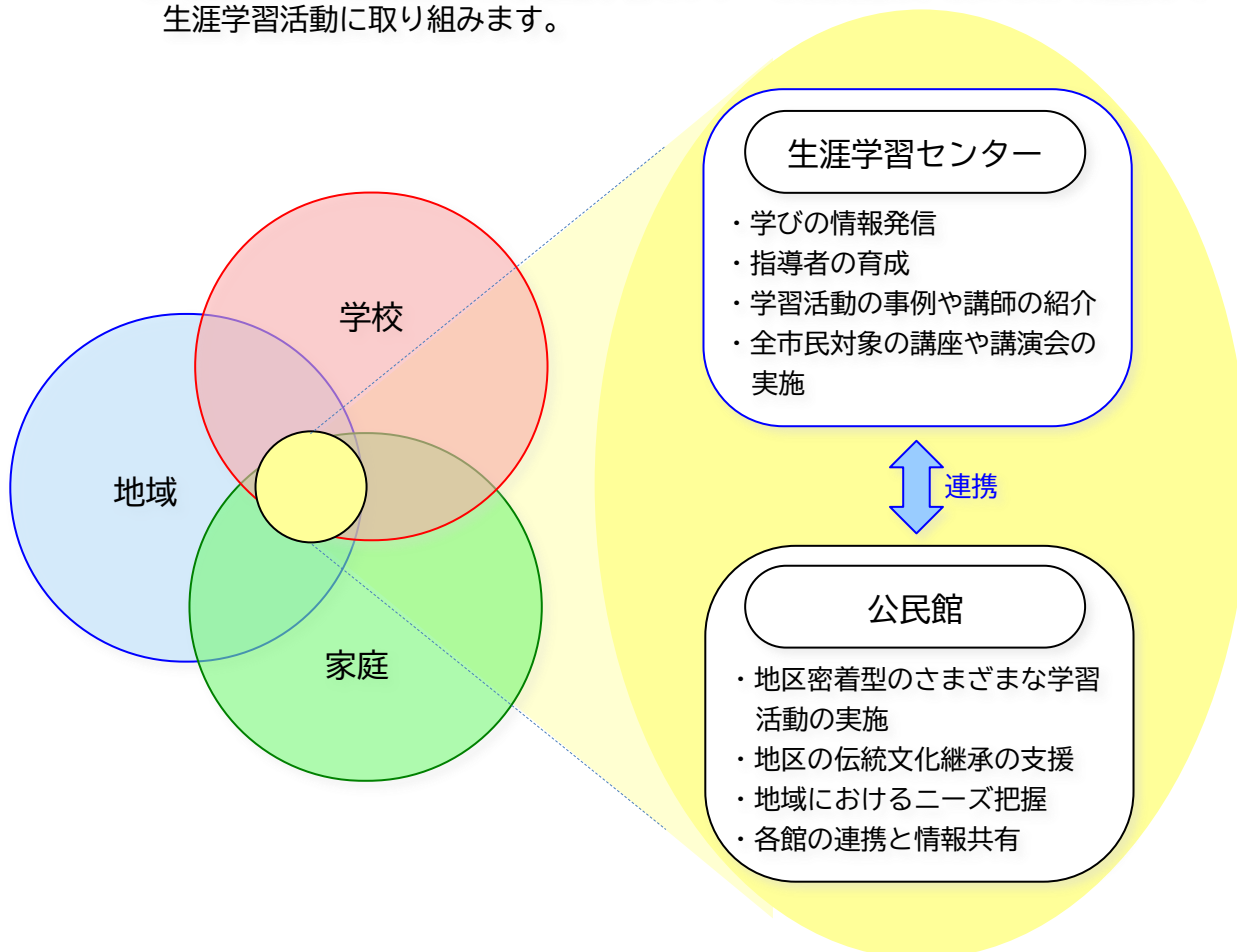


【情報発信】

- 健康や福祉、環境、防災など、生涯学習につながるさまざまな分野の情報を積極的に発信します。
- 広報紙やチラシに加え、ホームページやSNSなど多様な手段により、年代やライフステージに応じて効果的に生涯学習情報を発信します。

【生涯学習活動の連携】

- 生涯学習の拠点施設である生涯学習センターと公民館は、次のとおり連携して生涯学習活動に取り組めます。



第4章 計画実現に向けての取り組み

基本方針1 ひとづくり

【地域を担う人づくりを推進します】

(1) ライフステージに応じた学習メニューの充実

- ① 子育てに悩む家庭に対する相談や支援に応じられるよう、産前・産後のケア、育児や子どもの発達などに関する講座や教室を開催します。
- ② 子どもたちのさまざまな活動を支援する指導者や、次代を担うジュニアリーダーを育成します。
- ③ 地域と学校の連携を図り、子どもの学習活動や部活動をサポートする人材を育成します。
- ④ 成人を迎える市民を対象に、大人の自覚を促す学習を推進します。
- ⑤ 仕事や趣味で身に付けた知識や技術を発信できる指導者を育成します。



家庭教育講演会

- ⑥ 幼児から高齢者まで、いろいろな本と出会う機会を提供します。
- ⑦ 「市民学校」や「わく湧くお届け講座」などを通じ、健康や福祉、環境、防災など、さまざまな知識の普及に取り組みます。
- ⑧ ボランティアとして活躍する人材育成のための講座や教室を開催するとともに、活動の支援を行います。
- ⑨ 多様な文化芸術に触れることで、心豊かな暮らしを営むことができるよう、市民に文化芸術活動の場を提供するとともに、市内の文化芸術団体を支援します。



子ども読書

(2) 時代の変化に応じた知識や技術の学習

- ① Society5.0の時代到来を見据え、パソコンやIoT (Internet of Things) についての知識が習得できる学習を推進します。
- ② インターネットの普及に伴い、有害情報やネット被害から身を守る学習を推進します。
- ③ 大野の豊かな自然環境を将来の世代に引き継いでいくため、令和32年(2050年)までの市内の二酸化炭素排出量「実質ゼロ」に向けた環境保全についての学習会や体験活動を推進します。

新しいことを一緒に学びましょう！



(3) 男女共同参画の推進や差別のない社会の実現に向けた人権教育の推進

- ① 男性や女性、性的マイノリティ、高齢者、子ども、障がいのある人、外国人などの多様性を認め合い、理解を深められる学習活動を推進し、すべての世代における意識作りを進めます。
- ② 行政や市内事業主、各種団体が実施する女性の参画拡大に関する事業について、効果的に市民に情報を提供し、男女共同参画意識の高揚を図ります。
- ③ 人権教育講座や研修会のほか、生涯にわたる学習を通じて、すべての世代における人権意識を醸成し、差別のない社会の実現に努めます。
- ④ 女性団体の活動を牽引するリーダーを育成するとともに、女性団体の運営をサポートします。



男女共同参画講演会

みんなが学びの主役！



(4) 地域の課題解決に関する学習の推進

- ① 地域において防災講演会や防災訓練を実施し、日ごろから防災についての知識と判断力、行動力を習得できるよう推進します。
- ② 研修会などを通じて、自主的な防犯意識の向上を図ります。
- ③ 地域の伝統や行事を守り、将来に向かって引き継いでいく人材を育成します。
- ④ 少子化・高齢化、人口減少など、地域が直面する課題の解決や地域活性化のための学習に取り組むとともに、学んだ成果を地域に還元できる場を提供します。



地域を支えるのは「ひと」。
だれかじゃなくて、自分ができることって
なにかな。

基本方針2 つながりづくり

【地域での交流を深め、支え合いを広げます】

(1) 地域で支え合う仕組みづくり

- ① 公民館において子育て講座を開催するほか、保育園や認定こども園、小中学校においても保護者の交流の場づくりを図ります。
- ② 公民館や児童センターにおいて親子で参加できる講座を開催し、さまざまな体験学習や交流活動を推進します。
- ③ 高齢者の生きがいづくりや学習意欲の向上に結び付く講座を開催します。
- ④ 子どもから高齢者まで、多様な世代が活動を通じて交流を深められる講座やイベントを実施します。
- ⑤ 体操教室や健康づくり教室などにおける地域の交流を通じた仲間づくりと、市内で活動する団体・サークル間の交流を促進します。

友達がたくさんできるといいなあ。
キーワードは、「助け合う」「声掛け合う」
「遊び合う」「教え合う」だね。



(2) 地域に誇りと愛着が持てる学習の推進

- ① 地域への誇りと愛着を育むため、市内各地区における歴史や文化、自然を学び体験できる学習を推進します。
- ② 文化財の指定やおおの遺産の認証件数の増加を図り、文化遺産や自然遺産を次世代へ継承できるよう、「大野市文化財保存活用地域計画」に沿った事業を実施します。
- ③ 地域の伝統行事や祭りなどを通して、世代間交流や地域の絆の強化を図り、伝統行事を次世代へ継承できるよう支援します。



こどもたちに
伝えていきたいことがいっぱいあるね。

(3) 国際交流・国際理解教育の推進

- ① 異文化への理解や国際感覚を養うため、外国人や外国の文化に触れる学習の場を提供します。
- ② 市民団体が実施する文化やスポーツなど、幅広い分野に関する国際交流活動を支援します。



ジュニアリーダー研修会（ALT）

大野のよさをもっと広めたいね。



(4) 団体・企業との連携

- ① 地域の活性化に取り組む青年団体の活動を支援します。
- ② 地域課題や住民ニーズに対応する新たな活動の立ち上げを支援します。
- ③ 企業やボランティア団体、文化芸術活動を行う団体と連携し、市民への学習支援や体験できる学習の機会を広げます。



ふるさと芸能発表会

基本方針3 学ぶ場づくり

【地域住民が利用しやすい活動拠点を目指します】

(1) いつでもどこでも学べる環境づくり

- ① 夏休み中における中学生向け公民館開放など、子どもたちの学習の場の拡充に取り組めます。
- ② 障がいのある人も積極的に生涯学習に参加できるよう、学習方法や活動内容を工夫して学びの場づくりを進めます。
- ③ 市民が学習成果を発表する機会の充実を図ります。
- ④ 県内外の大学との連携を深め、より専門的な学びの機会づくりに取り組めます。
- ⑤ 生きがいのある人生の構築や職業能力の向上など、人生100年時代に対応した市民の学び直しの機会を提供します。
- ⑥ 従来の集合型の講座や学習活動だけでなく、インターネットなどを活用するなど、ニューノーマルに対応した学びの機会づくりに取り組めます。

いつでも、どこでも、だれとでも、
知らないことが分かるって楽しいね。



(2) 気軽に集うことができる活動拠点の充実

- ① 生涯学習の拠点施設である生涯学習センターや公民館、図書館などの運営方法を工夫し、市民が親しみやすく、仲間づくりや地域づくりができる場を提供します。
- ② 公民館などで活動する団体やサークルの活動を育成・支援し、成果発表の場である大野市美術展や大野市総合文化祭などにつなげます。
- ③ 市民の学習意欲に応えられるよう、図書館の蔵書や情報機器の充実に取り組みます。



大野市生涯学習センター（学びの里「めいりん」）

～わたしたちができること、みんなのできること～



学びに関する情報を
チェックします。

気になったことは、
ほうっておかずに調べます。



子どもと
一緒に学びます。

誰もが学べる環境を
みんなで作ります。



学んだことは、
みんなで分かち合います。

資料

- 1 大野市生涯学習推進計画の策定経過
- 2 生涯学習に関する世論調査（抜粋）
- 3 委員名簿

1 大野市生涯学習推進計画の策定経過

年月日	内容
令和3年(2021年) 6月25日(金)	第1回策定委員会 ・委員長、副委員長の選任 ・計画策定経緯、生涯学習の現状と課題について ・計画策定スケジュール、骨子案について
8月11日(水)	第2回策定委員会 ・内閣府世論調査、生涯学習事業で実施したアンケートについて ・骨子案について
9月28日(火)	第3回策定委員会 ・計画素案について
11月4日(木)	第4回策定委員会 ・計画素案について
12月1日(水)～ 12月15日(水)	パブリックコメント
令和4年(2022年) 1月21日(金)	第5回策定委員会 ・計画素案について

2 生涯学習に関する世論調査抜粋（内閣府実施）

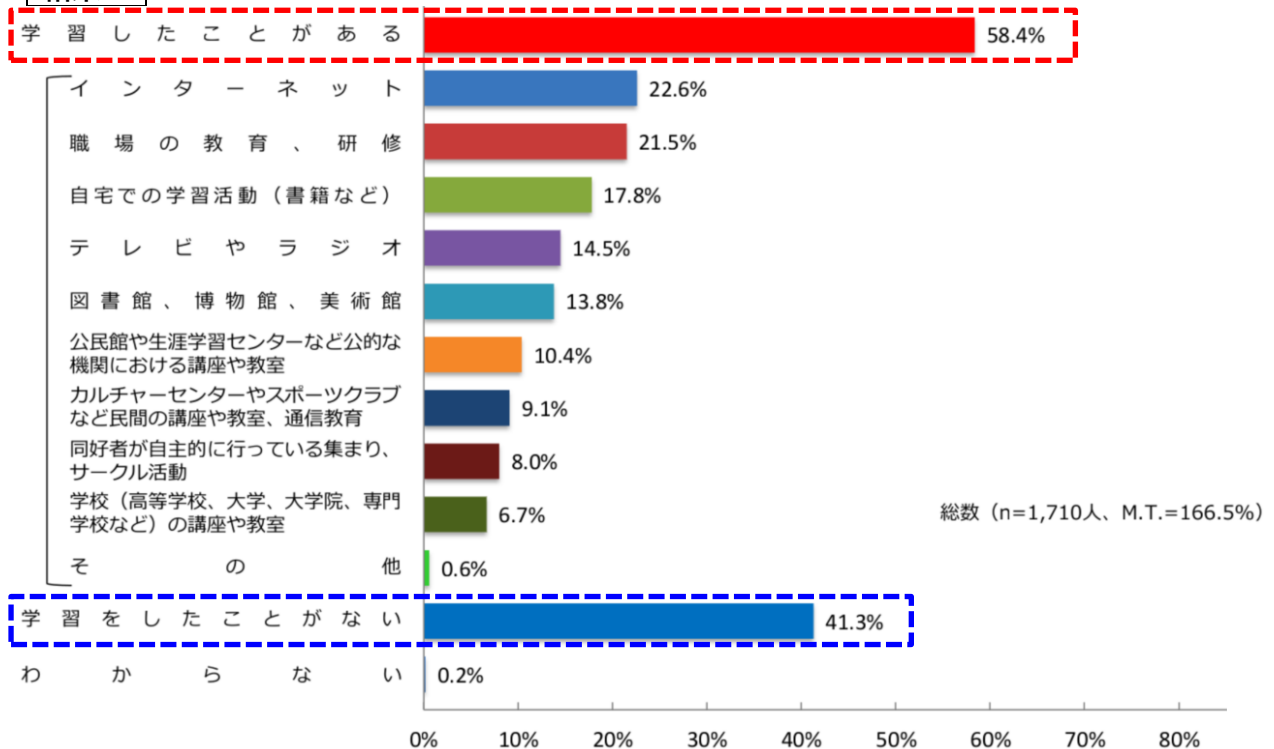
調査年月 平成30年6月～7月

調査対象 全国18歳以上の日本国籍を有するもの3,000人
回収数1,710人（回収率57.0%）

（1）この1年間の学習の形式

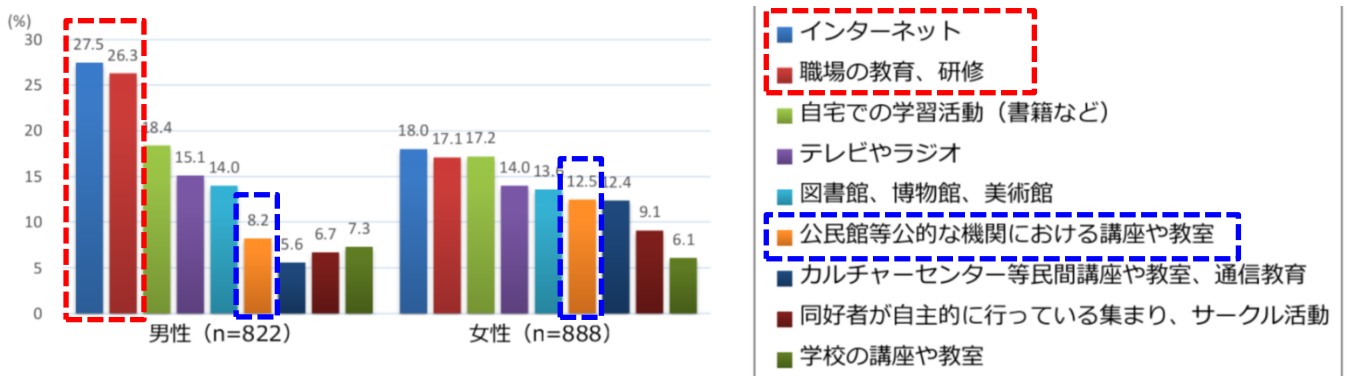
問1：あなたは、この1年間の間にどのような場所や形態で学習をしたことがありますか。
（複数回答）

結果1



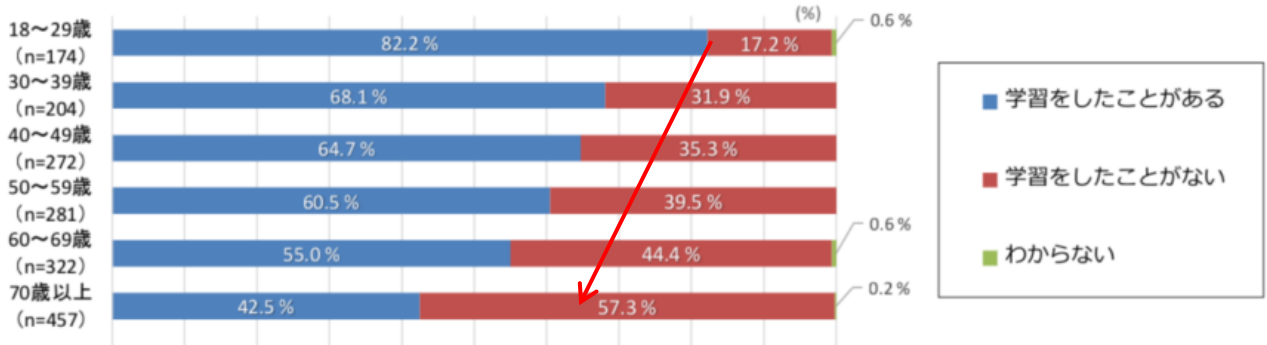
結果2：男女別の学習の形式

- ・男女とも「インターネット」の回答が最も多いが、特に男性は「インターネット」、「職場の教育、研修」の回答が顕著に多い。
- ・「公民館等公的な機関における講座や教室」の回答が少ない。



結果3：年代別の学習の有無

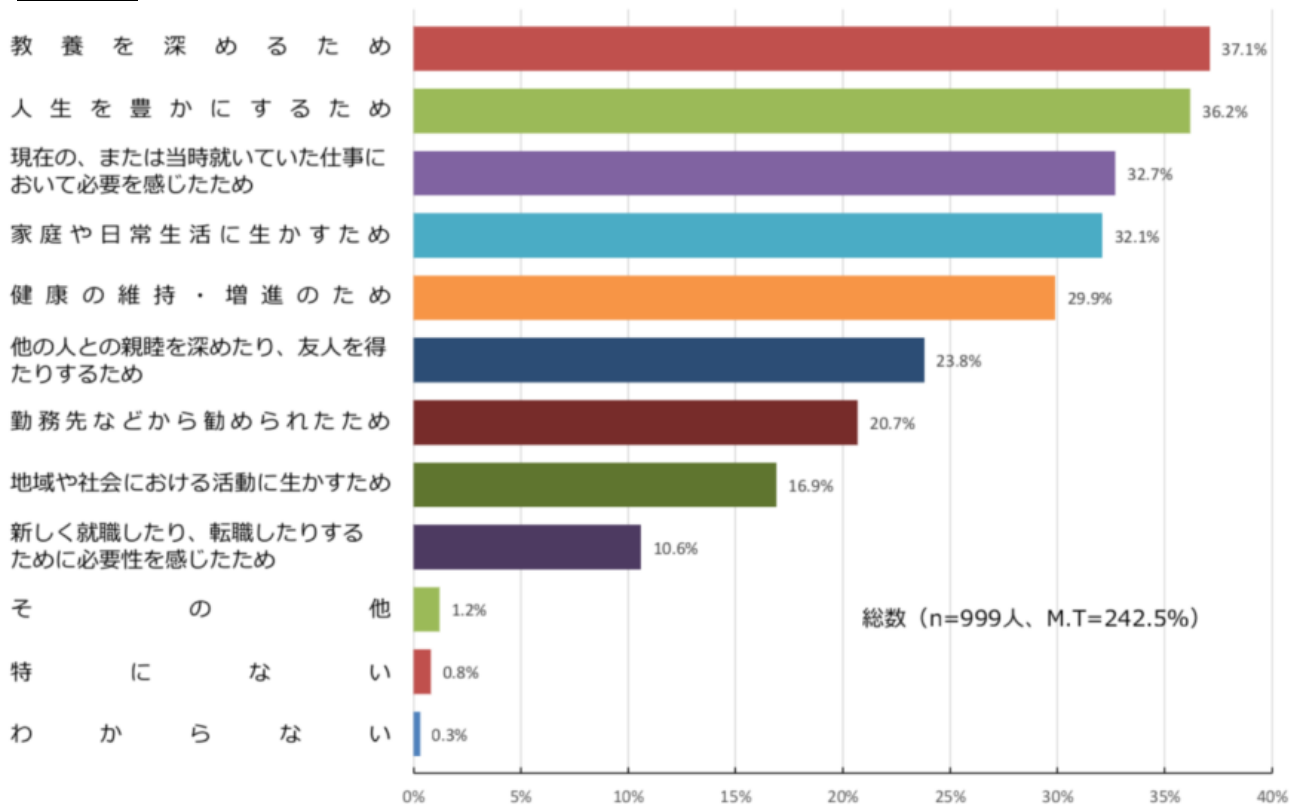
・「学習をしたことがない」との回答が年代とともに増加。



(2) 学習をした理由

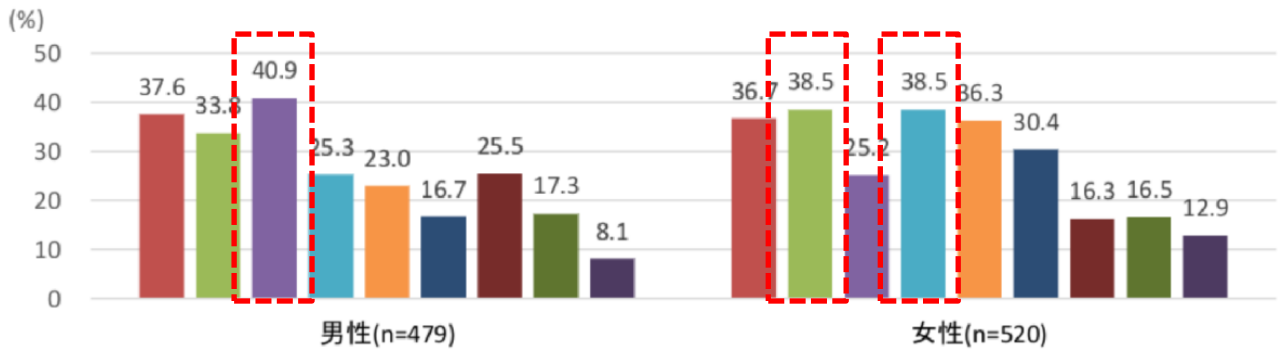
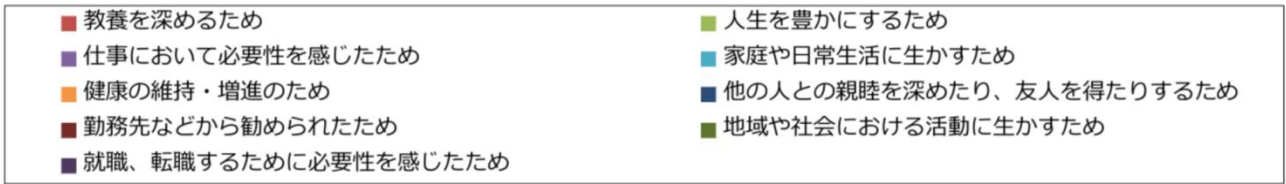
問2：(学習をしたことがあると答えた999人に対し) 学習した理由は何ですか。
(複数回答)

結果1



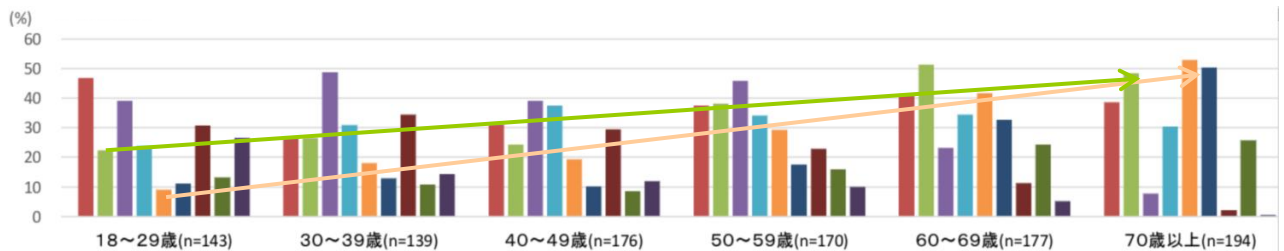
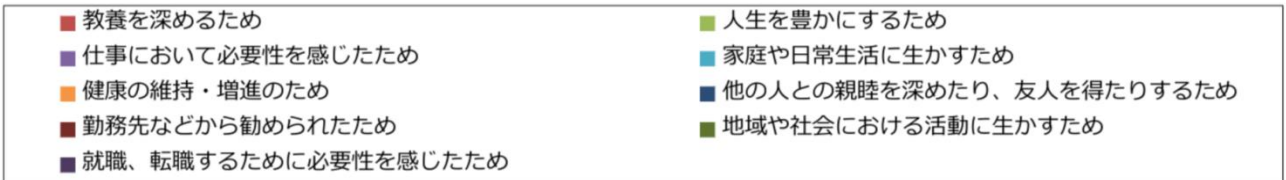
結果2：男女別の学習の理由

- ・男性では「仕事において必要性を感じたため」が最も多い。
- ・女性では「人生を豊かにするため」及び「家庭や日常生活に生かすため」が最も多い。



結果3：年代別の学習の理由

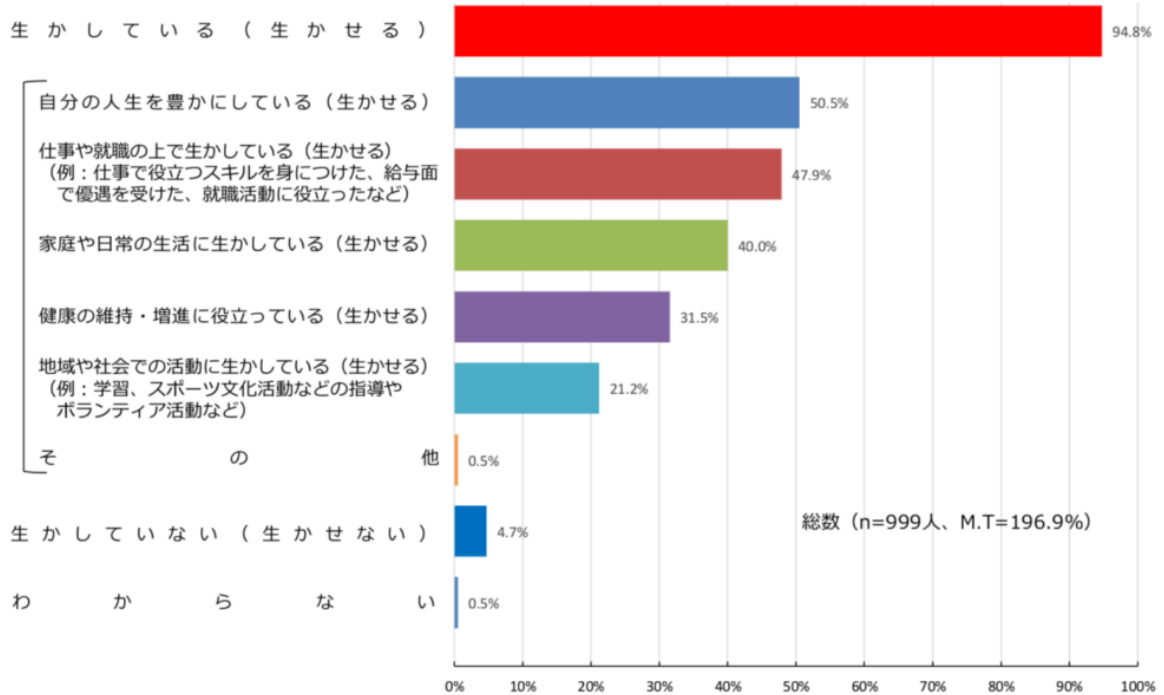
- ・30～50代は「仕事において必要性を感じたため」が最も多い。
- ・年代が上がるにつれ「人生を豊かにするため」、「健康の維持・増進のため」が増加傾向。



(3) 学習成果の活用状況

問3：(学習をしたことがあると答えた999人に対し) 学習した成果をどのように生かしていますか。あるいは生かせると思いますか。(複数回答)

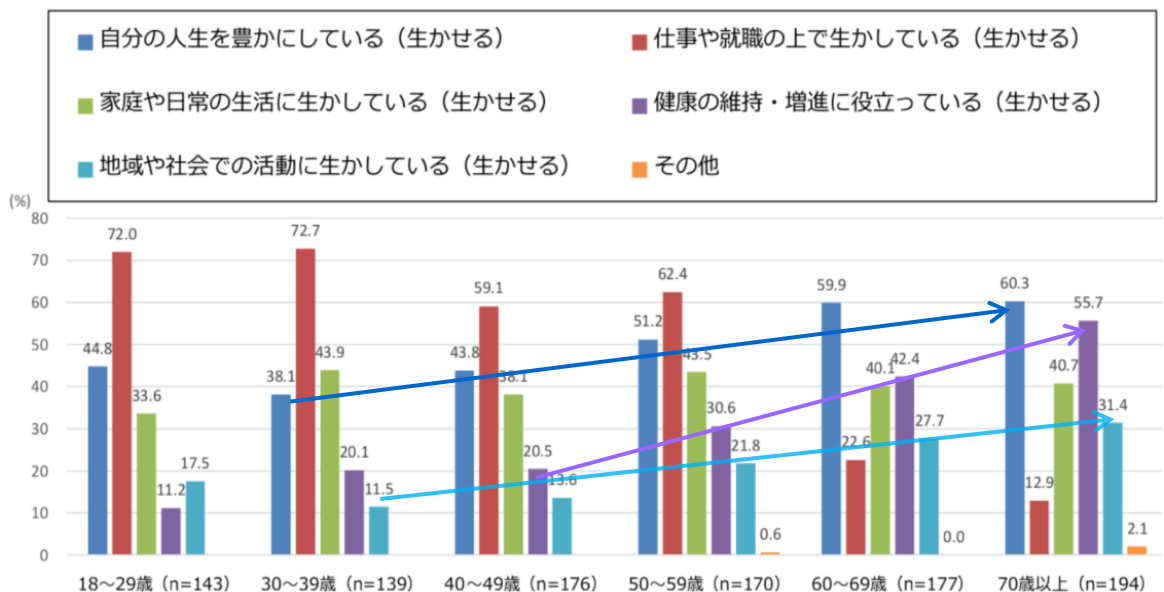
結果1



結果2：年代別の学習成果の活用

学習したことがあると回答かつ学習成果を「生かしている(生かせる)」と回答した方のうち、

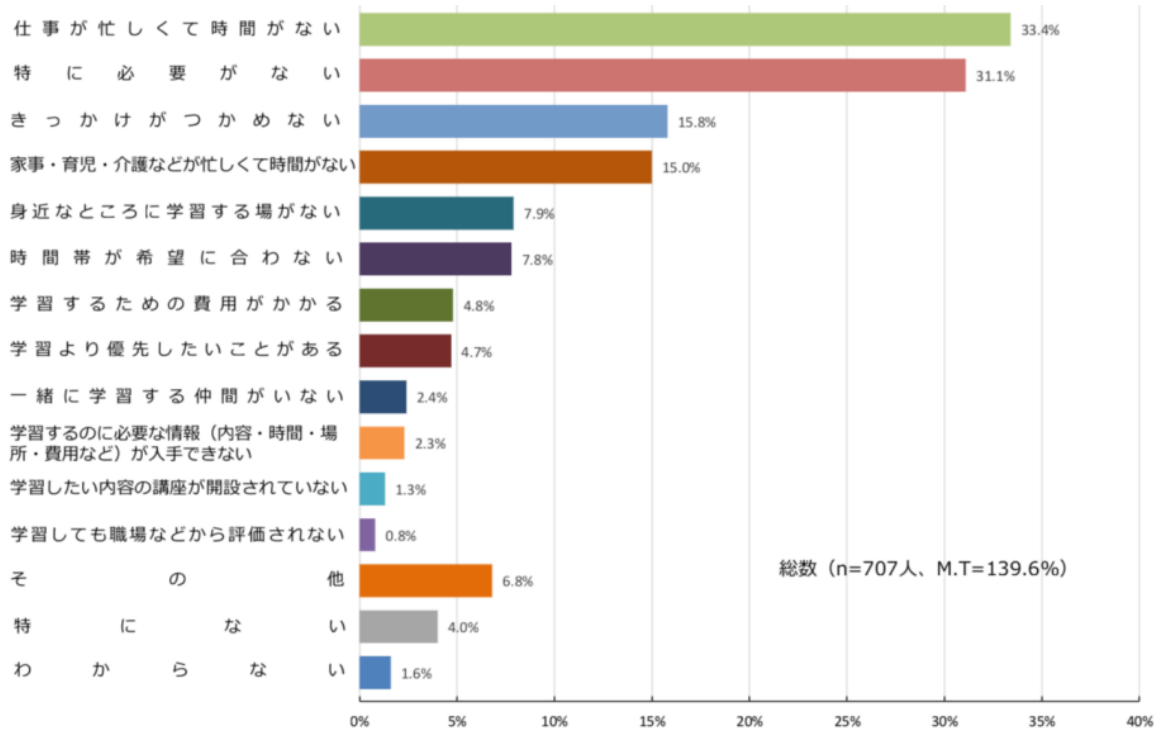
- ・50代以下の各年代は、学習成果を「仕事や就職の上で生かしている」の回答割合が最大であり、半数以上がこの回答を選択している。
- ・「自分の人生を豊かにしている」、「健康の維持・増進に役立っている」、「地域や社会での活動に生かしている」の回答は、年代が上がるにつれて増加傾向。



(4) 学習をしない理由

問4：(問1で学習をしたことがないと答えた707人に対し) 学習したことがない理由は何ですか。(複数回答)

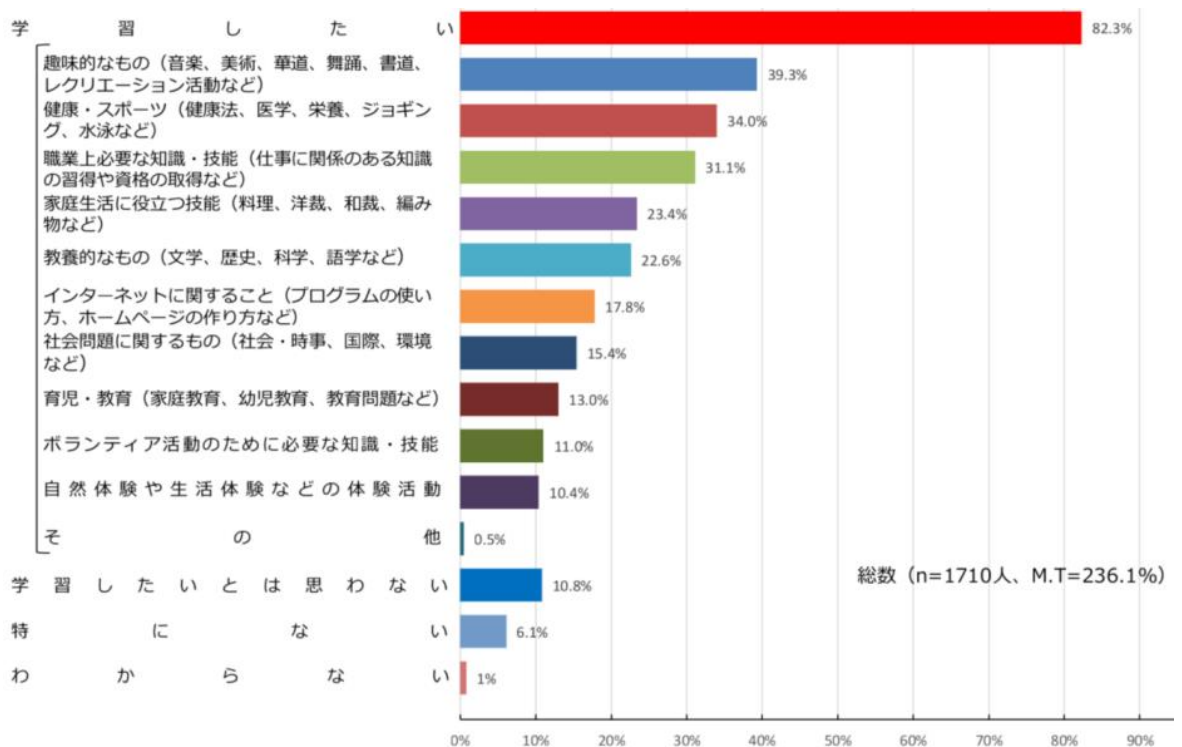
結果



(5) 今後学習したい内容

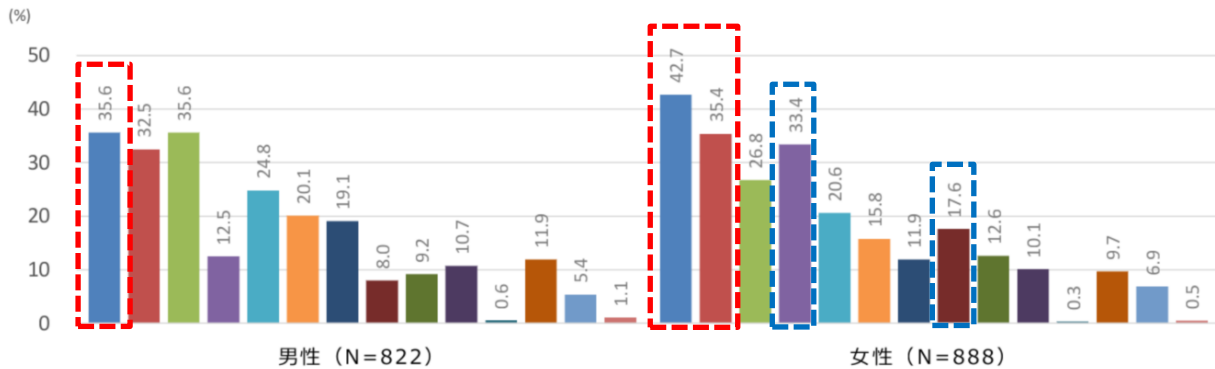
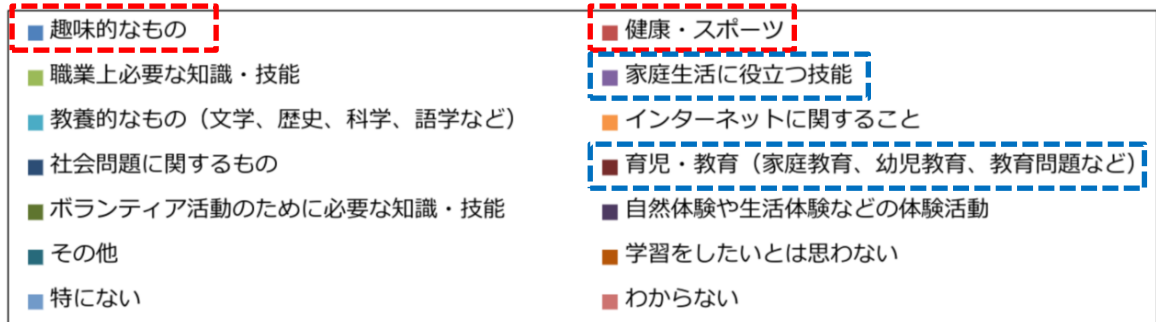
問5：これから学習するとすればどのようなことを学習したいですか。(複数回答)

結果1



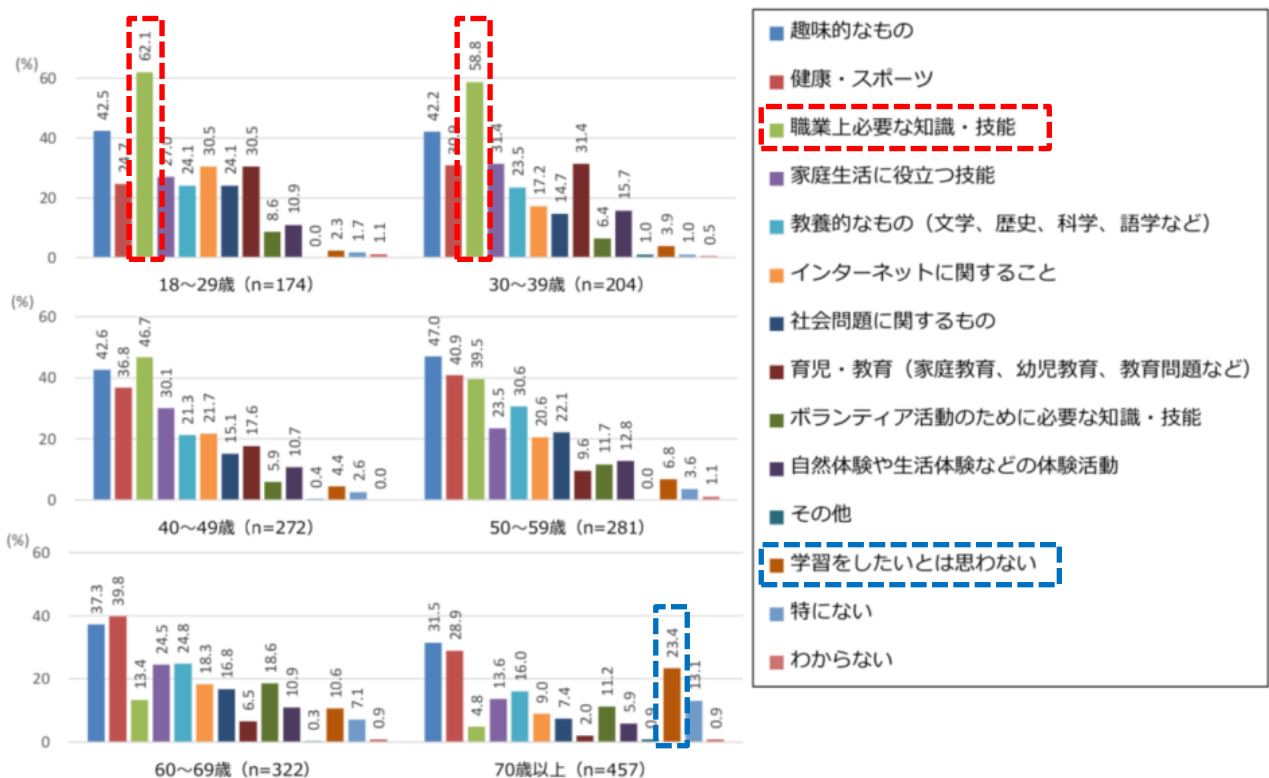
結果2：男女別の今後学習したい内容

- ・「趣味的なもの」、「健康・スポーツ」の回答は男女とも上位。
- ・「家庭生活に役立つ技能」、「育児・教育」の回答が女性において多い。



結果3：年代別の今後学習したい内容

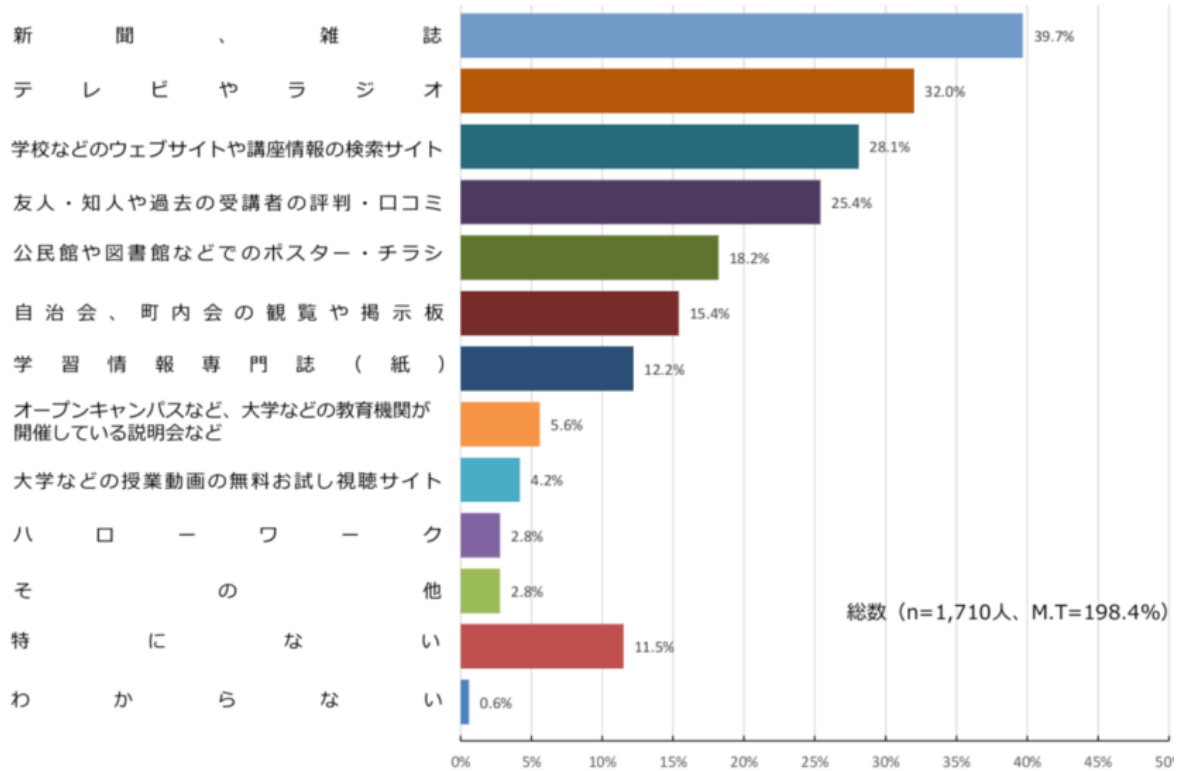
- ・若い年代ほど「職業上必要な知識・技能」の割合が多く、30代までは半数以上が選択。
- ・70歳以上では、「学習をしたいとは思わない」の割合が顕著に高い。



(6) 今後の情報収集の方法

問6：これから学習するとすれば、どこから情報収集を行いますか。

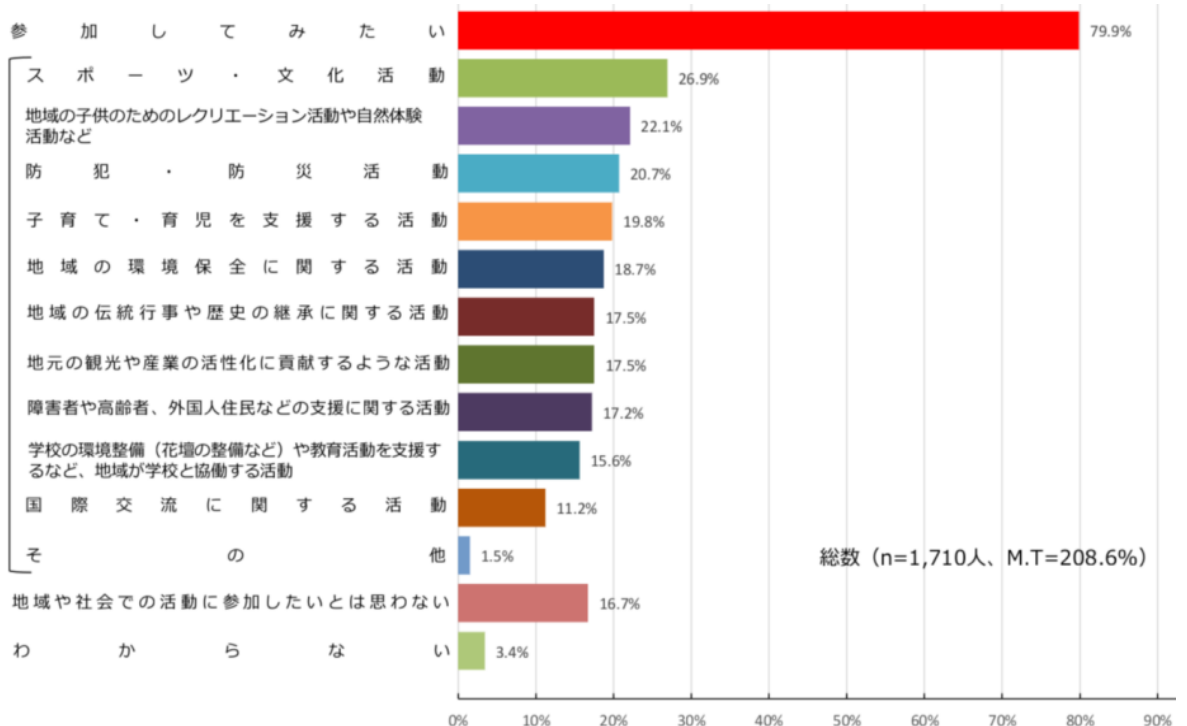
結果



(7) 地域社会での活動への参加意欲

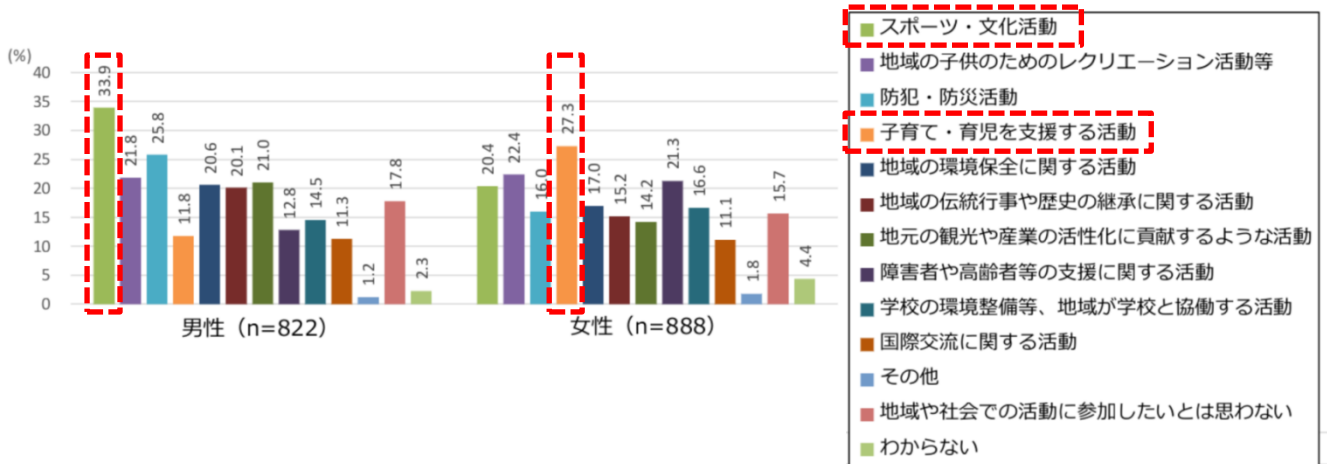
問7：あなたは、地域や社会でどのような活動に参加してみたいと思いますか。（複数回答）

結果1



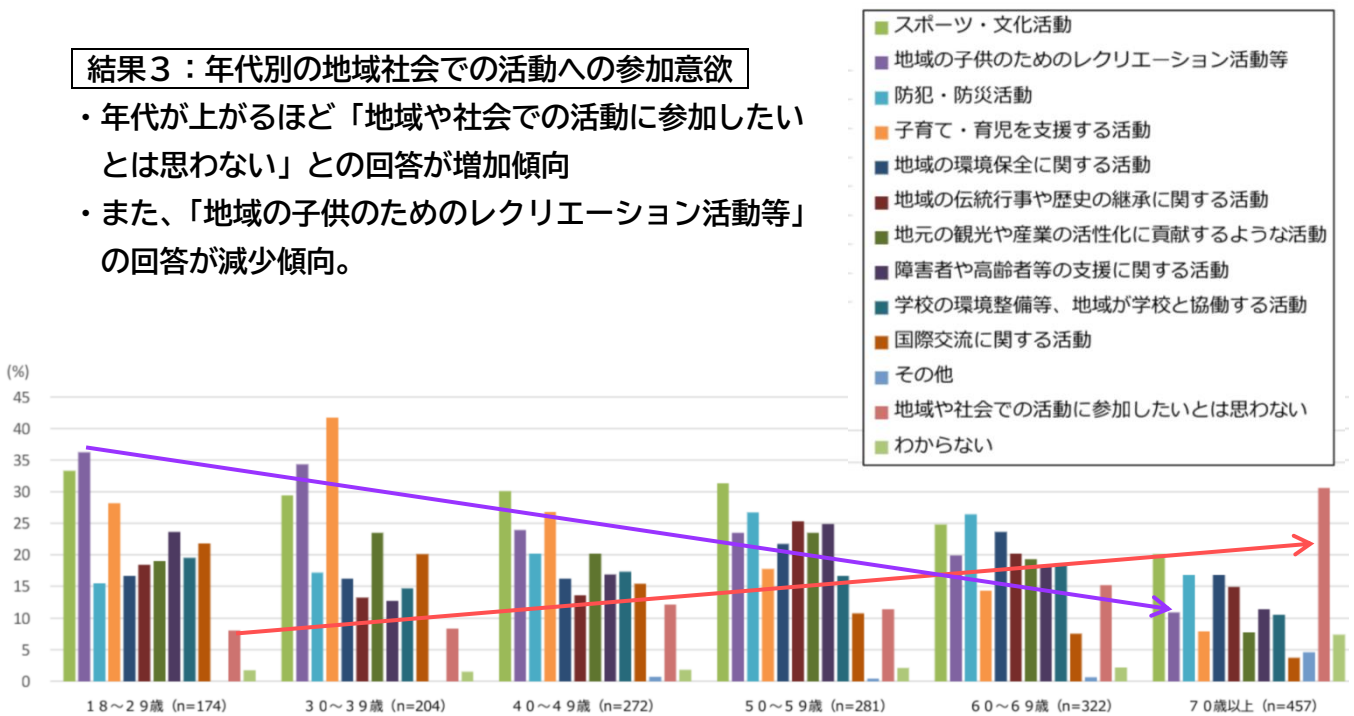
結果2：男女別の地域社会での活動への参加意欲

・男性では「スポーツ・文化活動」、女性では「子育て・育児を支援する活動」の割合が最も高い。



結果3：年代別の地域社会での活動への参加意欲

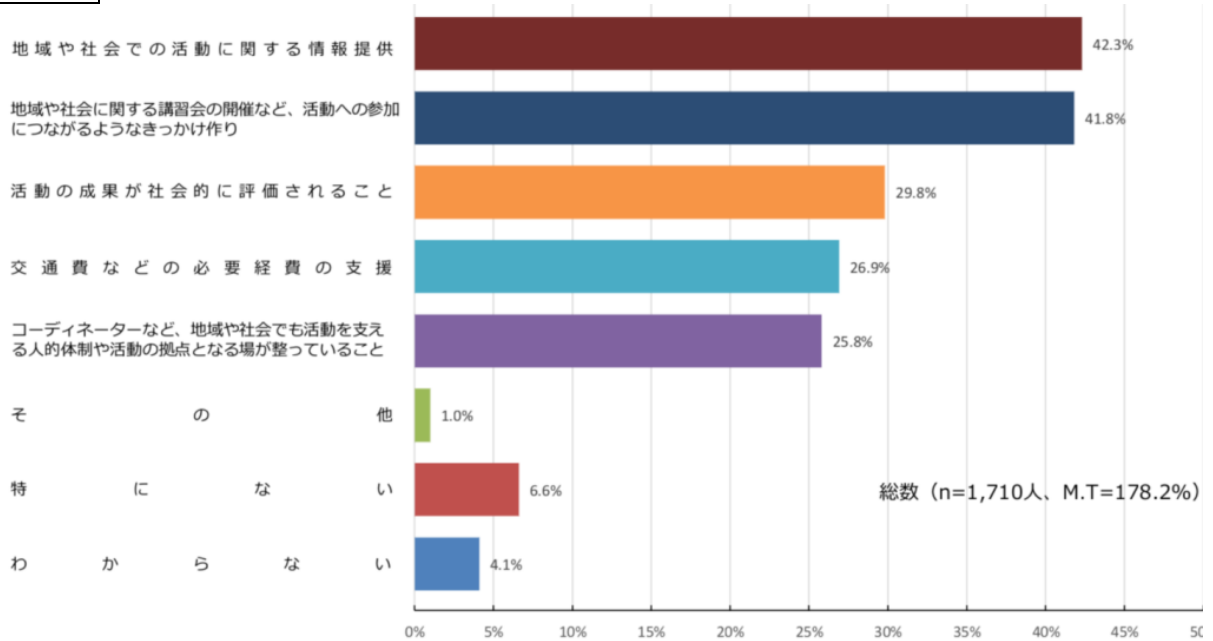
- ・年代が上がるほど「地域や社会での活動に参加したいとは思わない」との回答が増加傾向
- ・また、「地域の子供のためのレクリエーション活動等」の回答が減少傾向。



(8) 地域社会での活動への参加を促す方策

問8：多くの人が地域や社会での活動に参加するようになるためにはどのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

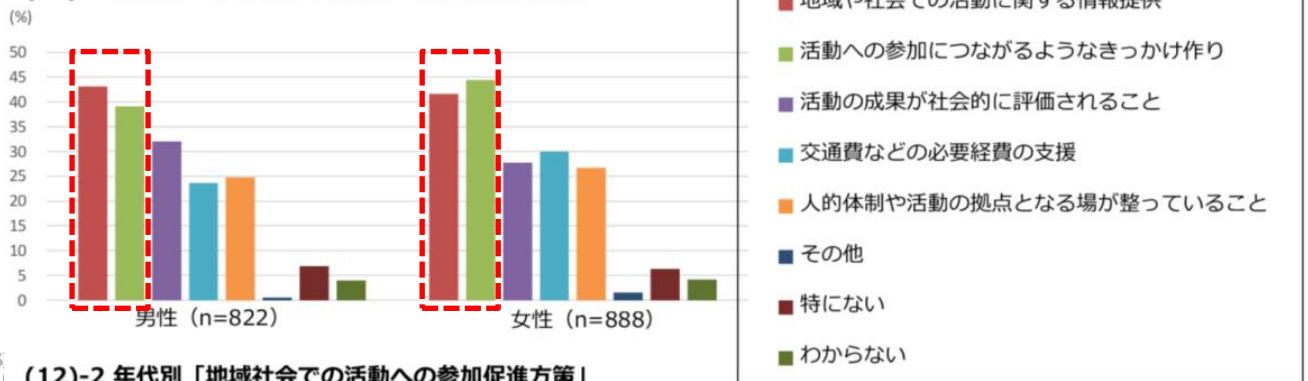
結果1



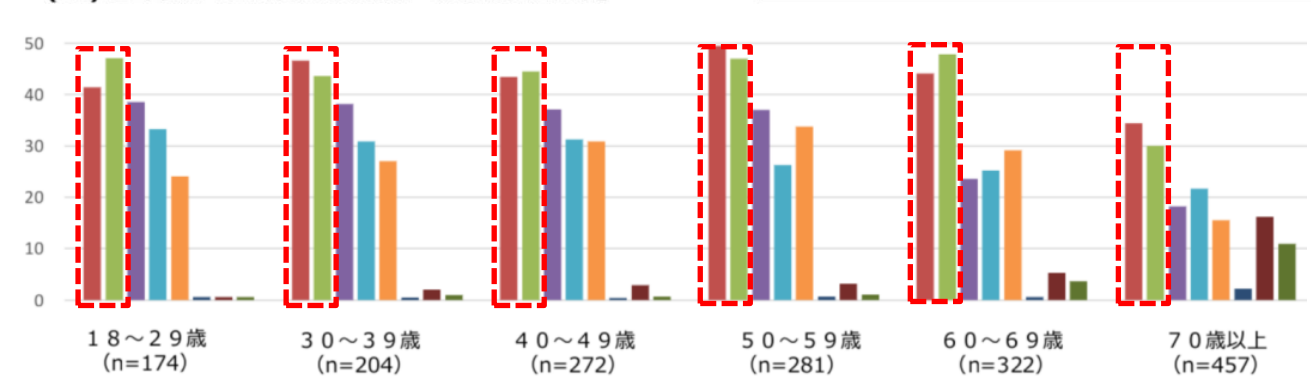
結果2：男女別、年代別の地域社会での活動への参加促進方策

・男女、各年代とも「地域や社会での活動に関する情報提供」や「活動への参加につながるようなきっかけ作り」の割合が多く、活動のきっかけがつかめていない状況。

(12)-1 男女別「地域社会での活動への参加促進方策」



(12)-2 年代別「地域社会での活動への参加促進方策」



3 委員名簿

任期：令和3年6月～令和4年〇月

敬称略

分類	氏名	役職等
1号委員	◎ 生駒 俊英	福井大学 准教授
2号委員	○ 佐々木 正祐	大野市社会教育委員の会議 委員長
2号委員	山本 耕平	大野市生涯学習推進会議 会長
2号委員	中出 良一	大野市新しいまちづくり運動推進協議会連絡会 会長
2号委員	牧田 紀子	大野市子ども会育成連合会 幹事
2号委員	飛石 めぐみ	ヨーガ教師
2号委員	岩田 千津子	人材活用登録指導者会（生涯学習人材活用登録指導者）
3号委員	山岸 謙	合同会社越前おおの荒島社
3号委員	林 敦子	越前信用金庫 美山支店長代理
公募	小嶋 秀穂	公募委員
	三浦 明子	公募委員

◎委員長 ○副委員長

1号委員・・・学識経験者

2号委員・・・家庭教育又は地域教育に関わる機関及び団体の関係者

3号委員・・・上記の者の他、教育委員会が適当と認めるもの



大野市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

